

天地人

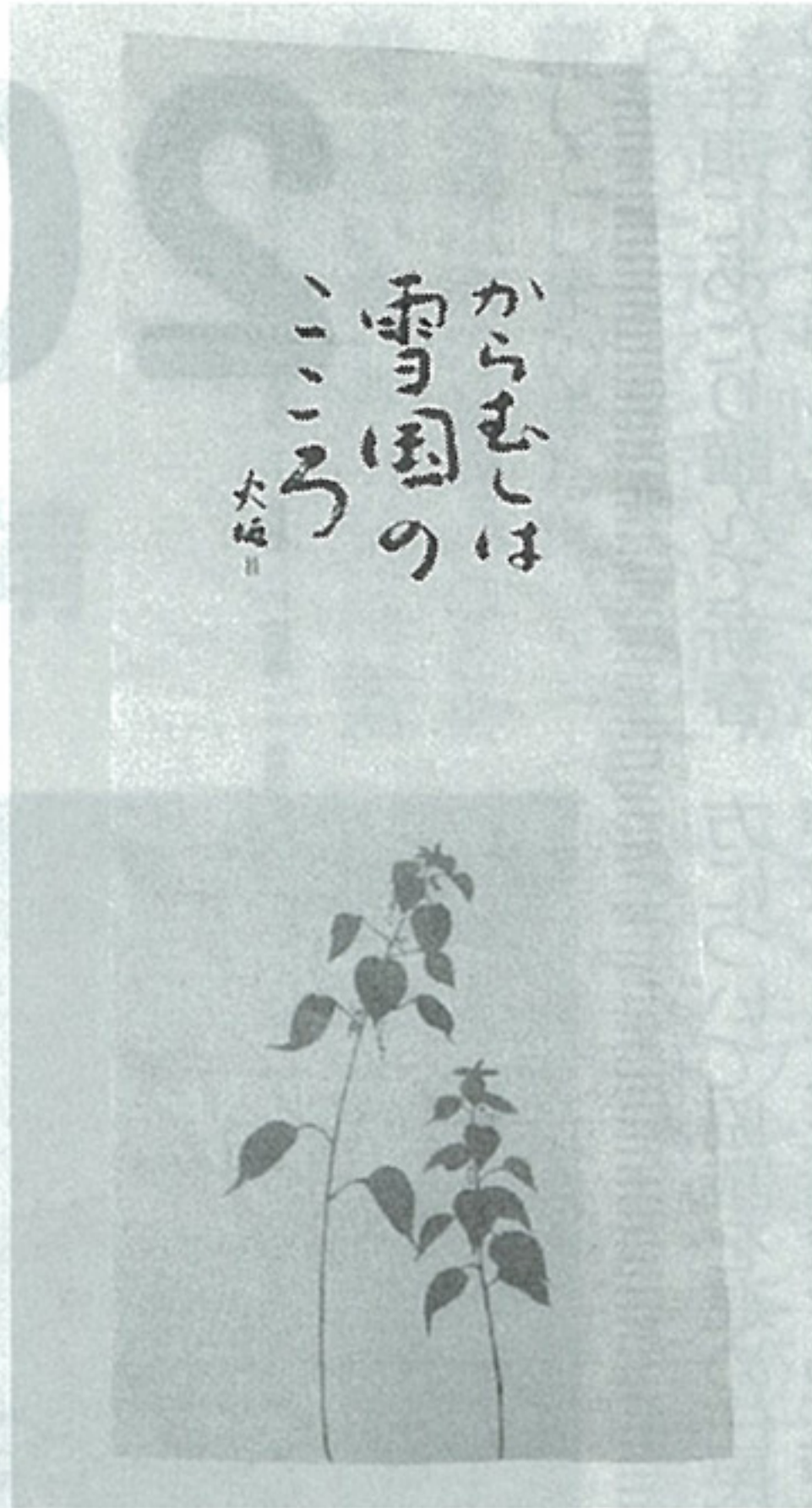
直江兼続の兜の「愛」を

かぶと

(有)ネオ昭和
村山好明氏 「からむし織り」で商品化



庭野政義氏の筆による「からむし織り」の染め「手ぬぐい」



「からむし織り」の専門店(有)ネオ昭和(村山好明社長)十日町市伊達)では、

商品を製作、販売を開始した。

これは、同社が開発した新商品で、名は「からむしジャンボ手ぬぐい」。素材は、よこ糸がからむし100%、たて糸は綿100%。サイズは幅36cm、長さ1m。図柄作者は、十日町産地の染色作家の庭野政義氏で、元十日町芸術協会会長。日本画家として、ふるさとの風景画や民家をモチーフに各種展覧会に出展するなど活躍。十日町織物産地の中において染織デザイナーとして活躍している作家。

手ぬぐいには十日町の染め技術を取り入れて、書は、今年のNHK大河ドラマ

マ「天地人」の原作者火坂雅志氏の揮毫で「からむしは雪国のところ」と記し落かんが押されている。

上部には米沢神社に所蔵されている直江兼続(ドラマ主人公)の鉄兜につけてある「前立」の「愛」の字を赤で染め、からむしの木を2本自然に繁ったままの姿を描き、若草色で染めあげて、庭野氏の書で「夫婦からむし」と書き、落かんが押してある。

「木綿」と「からむし」で織り上げた1mの長さの手ぬぐいは、戦場で武将が「はちまき」にするものであるが、現代人にとっても大巾で風呂上がりなどに使用される実用的な面もある。

り、部屋の壁に吊り掲げて観賞用にもなる。売値1枚2千円で「既に5千枚を売却済み。今年にかけて六日町や米沢などの観光地へ大量に販売していきたい」と村山好明社長は張り切っている。

「からむし織り」は、村山社長が、30年前から原産地福島県昭和村で織り技術を学び、十日町産地での産業の一翼としたいとして事業化に着手して以来、各種商品に活用しているが、「天地人」ブームの六日町、米沢、上越で一旗上げたいとPR宣伝に入っているもの。直江兼続人気と共に商品販売が軌道に乗ることが期待されている。